



「田舎暮らしがしたい」ということは、田舎ならではの魅力があるということ。「地域を活性化させたい」ということは、どこかに課題が隠れているということ。

外からの目線で、それぞれの課題に取り組む地域おこし協力隊の活動を紹介します。



宇和島市地域おこし協力隊の活動情報や、本市の魅力をフェイスブックでも発信しています。ぜひ、ご覧ください。



人口減少や高齢化などの進行が目立つ地域で、市が「地域おこし協力隊」として、都市部などから意欲のある人を受け入れ雇用しています。活動期間は最長で3年です。その地域に住みながら、農林漁業の振興や住民の支援など、それぞれの活動に従事し、定住につなげています。

現在、市では計6人の協力隊員が活動しています。宇和島に縁もゆかりもなかった人、Jターン、Uターンをした人、さらには、四国では初めてとなる外国籍の人も。協力隊員の皆さんの、人生を賭けた挑戦を特集します。

## 奥南地区



毎日が勉強。でもそれが楽しみ



「協力隊全国サミット」に参加



「みかんの授業」の様子

### profile



奥南地区担当  
渡部 武士 さん (39歳)  
東温市 出身  
平成 28年9月1日 着任

関東・関西圏域で、大手ホテルや、証券会社などに勤め、飲食店を経営したことも。おもてなしの気持ちを大切に、奥南地区をPRしたい。

奥南のかんきつ農家兼営業担当に

渡部さんは、ミカン農家を手伝いながら技術を学び、ときには奥南小学校で「みかんの授業」と題し、農家の仕事を紹介することもあります。また、みかんジュースなどのPR活動にも力を入れています。平成29年4月には、東京銀座にオープンした大型商業施設内のレストランとの取り引きが成功しました。2月4日(日)には、東京都で開催された「協力隊全国サミット」に参加し、かんきつの魅力を発信し続けています。退任後について、「独立して美味しいかんきつの生産に取り組み、地域産業に貢献していきたい」と話しました。

## 御槇地区



profile

御槇地区担当  
大矢 夏己 さん (28歳)  
新潟県新潟市 出身  
平成 29年5月1日 着任

ずっと田舎暮らしをしてみたかった。御槇地区の活性化に取り組みながら、憧れの田舎暮らしを楽しみたい。



秋には、黄色い稲穂と広がる青空が絶景



高齢者見守り配食事業



「いもたき」の様子

「みまきガーデン」の運営サポート

運営するのは、地域の元気なお母さんたちが中心。大矢さんは、SNSを利用して、みまきガーデンで行われるイベントなどの様子を発信しています。

地元食材を使った手作り料理などが好評で、本市の「高齢者見守り配食事業」を活用して、ひとり暮らしの高齢者向けに配食サービスなどを行っています。週に1回の配食サービスでは、車で利用者宅をまわります。弁当の配達に合わせ、地域の人たちと顔を合わせて世間話をするなど、地域の人との交流を楽しみつつ、やりがいを感じながら活動しているそうです。

## 蔣淵地区



手作りの薫製鯨



薫製に使うミカンの皮



開発中のジャッキー。塩気が効いてつまみに最適

profile

蔣淵地区担当  
土井 雪江 さん (26歳)  
福岡県福岡市 出身  
平成 29年6月1日 着任



蔣淵のおおらかで豪快な人柄が大好き。高齢者や主婦など、誰もが簡単に作れる商品を開発し、地域に還元していきたい。

地元  
の魚を生かした新商品  
開発

地元の魚を薫製にしたジャッキーを開発中です。一般的には、サクラの木を使って薫製にしますが、土井さんは、宇和島の特産品であるミカンの皮を使用しています。サクラよりも香りが優しく仕上がるそうです。ジャッキー自体はほとんど仕上がっていますが、火を完全に通さないため、衛生的な課題を克服することが難しく、「商品として販売するには、まだまだ工夫が必要」と今後の課題を話しました。

味も3種類を用意しています。地元の人が好きなお酒に合う商品を目指して取り組んでいます。



「真珠、ハマチ、早掘りバレイショ。魅力的な素材がたくさんある」

鬼木さんは大分県で生まれ、5歳ごろからは埼玉県や東京都で30年を過ごし、医療機器メーカーやIT関係の会社で営業に携わりました。大学時代に、まちづくりや、地域活性化の取り組みについて勉強し、都会にはない落ち着いた雰囲気での生活に憧れを持つようになったと当時を振り返りました。妻も田舎暮らしに興味を持っていましたが、仕事があれば移住はできないと悩んでいました。あるとき、地域おこし協力隊の制度を知り、大好きな海の近くでの生活と、情報発信という得意分野を活用した仕事ができる遊子地区の応募を見つけて心を決めたとのことです。

profile

遊子地区担当  
鬼木 陽介 さん (37歳)  
大分県日田市 出身  
平成 29 年 12 月 1 日 着任



【今後の取り組み】

「遊子地区には魅力的な素材がたくさんあるので、その魅力を発信していきたい。そのためには、遊子で行われるさまざまな取り組みに参加していきたい」とのことでした。鬼木さんが着任して数カ月。真珠の珠出しやハマチの一本釣りを体験したり、地域の駅伝大会に参加したりしています。その様子を、「遊子物語」というフェイスブックで積極的に発信しています。「まずは地域を知り、できることから少しずつ取り組んでいきたい」と話しました。



「今は毎日が勉強。はやく生活に慣れ、地域のために貢献したい」

profile

岩松地区担当  
ニルソン シーモン さん (30歳)  
スウェーデン 出身  
平成 30 年 1 月 1 日 着任



四国では初となる、外国籍の協力隊員で、スウェーデン出身です。元の高校を卒業後、愛知県岡崎市にある日本語学校に進学しました。その後は、一度スウェーデンに戻りましたが、同校時代に知り合った日本人女性との結婚を機に、平成28年12月に日本に移り住みました。当時は、妻が住んでいた愛知県名古屋市中で生活していました。旅行が好きで、日本各地を訪れる中で、愛媛県に出会いました。宇和島の山もあり海もあり、人のやさしさを感じる雰囲気にも惹かれ、地域おこし協力隊の制度を利用して移住することを決意したそうです。

【現在の取り組み】

協力隊としての任務は「岩松地区のまちづくり」です。着任して間もないですが、地域の産業まつりや駅伝大会にスタッフとして参加しました。普段は津島支所に勤務し、外国人観光客向けに、岩松地区の町並みマップを英語翻訳しています。ほかにも、しらうお漁や、どぶろく造りにも参加して、地元にも根付く伝統文化にも触れています。日本語学校に通っていたこともあり、流暢な日本語で時折冗談を交える余裕も。「今春には長男が生まれるので、気合いを入れて任務に取り組みたい」と話しました。



「人の温かみを感じるこの地で勝負をしてみたい」

2月に着任したばかりの水野さんが、初めて宇和島に訪れたのは3年前。まだ九島大橋が建設中だったので、すぐ近くに見える島にフェリーで行くことが非日常的だったと振り返りました。妻の祖母が九島で暮らしていることもあり、宇和島の人柄、九島地域独特の方言などにも親しみがあつたそうです。

アルバイトで調理場に立つたこともあるので、魚をさばくのは得意とのこと。また、大学卒業後は、大手ホテル会社に勤務しました。施設内すべての業務に携わったこともあり、皆さんをおもてなしすることに慣れていると話しました。

【今後の取り組み】  
水野さんは着任後、妻と子どもを連れて九島のあいさつ回りにでかけました。「道を歩けば誰かに声をかけられることが新鮮だった。これからは、自らが進んで声をかけ、早く地域に溶け込みたい」と話しました。

将来的には、これまでの経験を生かし、新鮮な魚が手に入る九島で飲食店を開業し、宿泊もできるような体制も整えていくことが目標だそうです。「少し立ち寄って帰るのではなく、滞在して観光を楽しみ、また来たいと思ってもらえるような場所にする活動を考えたい」と話しました。



profile

九島地区担当  
水野 裕之 さん (26歳)  
千葉県市原市 出身  
平成30年2月1日 着任

－ 任期を終えて －

協力隊を退任し、そのまま宇和島に定住した人の「今」を紹介します。



上甲 教文 さん  
戸島地区  
【任期】  
平成26年7月  
～29年6月

【上甲さんの今】活動終了後も引き続き戸島に住み、自ら立ち上げた会社を経営しています。任期中に取り組んでいたお酒の「海底熟成」を続けるほか、首都圏への戸島ブリやシマアジの販売に力を入れています。取引先は市外の飲食店が中心ですが、今後スーパーなどでの取り引きの予定もあるなど、販路を広げています。協力隊としての活動は、今の基盤を作る良い準備期間であったと振り返りました。



野内 隆行 さん  
御槇地区  
【任期】  
平成26年4月  
～29年3月

【野内さんの今】農業未経験者だった野内さんは、認定新規就農者として、御槇に定住しました。地域の農家さんに手取り足取り基礎技術を教わり、御槇米やエゴマの生産に携わっています。エゴマは、収穫後エゴマ油として加工し販売しています。「失敗を繰り返し、模索しながら作った。まだまだひよっこなので、地域の農家さんには今後も教わりながら取り組んでいきたい」と話しました。



渡邊 誠 さん  
御槇地区  
【任期】  
平成26年4月  
～29年3月

【渡邊さんの今】御槇に定住し、四国では珍しい、清満地区にあるスッポンの養殖、販売を手がける会社に就職しました。京都府を中心に販売を展開するほか、地域の産業まつりなどでも提供しています。高級なイメージのスッポンを少しでも身近に感じてもらいたいそうです。また、FMがいやで第2・4日曜日のラジオパーソナリティを務め、県外出身者からみた宇和島の魅力を発信し続けています。